

# ミニトマト管理情報(梅雨後の管理と高温対策)

令和4年6月  
JAおおぞらミニトマト部会協議会  
奥能登農林総合事務所

関東では、平年より1日早く梅雨入りが発表されました。梅雨の予防防除、梅雨明け後の高温対策のために準備を始めましょう。

## 1 1か月予報（6月9日発表時点） 高温多湿に注意！

気温：平年並または高い 降水量：平年並 日照時間：多い  
平年同様、曇りや雨の日が多い見込みなので、多湿による病気の発生に注意し、防除・換気をする。また、7月後半～8月は平年並に晴れる見込みなので、遮光の準備を始める。

## 2 防除

例年、梅雨時期に灰色かび病が多発するので、病気の発生を防ぐために、晴れ間を見て予防的に防除する。また、梅雨明け後は同一剤の連用を避けたローテーション防除で、10～14日間隔で散布をおこなう。高温時は薬害が出やすいので朝夕の涼しい時間帯に散布する。

## 3 高温対策（～旧盆頃）

高温による芯焼けや軟化玉の発生、強光による裂果を防ぐため、梅雨明け後から遮光（30～35%程度）をおこなう（例年では遮光開始は7月中旬、終了は8月20日頃）。なお、遮光資材の除去遅れは日射量不足による花飛びや着果不良に繋がるので注意する。

ミニトマトの生育適温（20～25℃）で管理するため、ハウス中央の見やすい位置に最高最低温度計を設置し、毎朝確認する。

また、ハウス上部の熱だまりを解消するため、出入口や天窓を開放し換気に努める。風雨が強い日もハウス内にふきこまない程度に開ける。夜間もサイドを開けて換気する。

## 4 今後の栽培管理のポイント

### （1）積極的なかん水

- 夏季の晴天日には、1日に1株2Lのかん水が必要。かん水は毎日おこない、数日分をまとめた多量のかん水はしない。
- 裂果しないように、かん水は収穫直後（午前中）におこなう。
- 猛暑日は気化熱で温度を下げるために通路散水（打ち水）する。湿度が高くないよう、換気も同時におこなう。

かん水後はマルチをめぐり、うねの肩が湿っていれば適量。



## (2) 着果促進

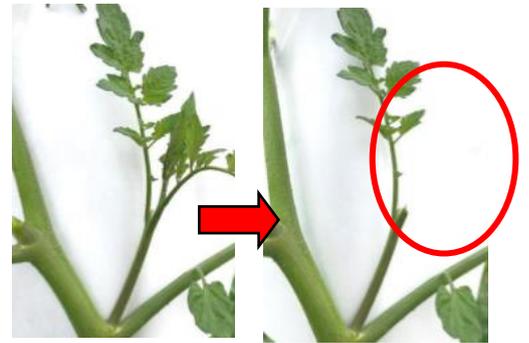
- ・ 落花防止のため、1花房に5花程度開花した頃にトマトトーンを使用。  
※処理は高温時を避け朝夕におこない、生長点にかからないようにする。
- ・ トマトトーンの希釈倍率は200倍（5～7日間隔）。  
※高温により着果不良が予想される場合は200倍で3～4日間隔。

## (3) 追肥とカルシウム剤の葉面散布

- ・ 3段花房開花以降、過繁茂の心配がなければ、遅れずに追肥を開始する。
  - ① 液肥10号：各段開花初めに1回1.5kg/a（200倍以上に希釈）
  - ② 有機8：奇数段開花初めに1回3kg/a
- ※草勢が著しく弱い場合は、葉面散布（液肥10号400～500倍）も追加
- ・ 高温乾燥による芯止まりの発生を予防するため、約10日間隔でカルシウム資材（カルハードなら500～1,000倍）を主枝先端部（生長点から約30～40cm）に葉面散布する。

## (4) 草勢の維持

- ・ 病気の発生を防ぐためにも、出来るだけ晴天日の午前中に、わき芽や収穫段の下葉をかき、通気性を良くする。
- ・ 草勢が弱い場合、わき芽除去を控える。  
また、わき芽を1葉残して摘除することで葉面積と生長点の数を確保する。残したわき芽の葉から発生する枝は、しばらく伸ばし主枝先端より高くなる前に取り除く。（右図）
- ・ 誘引は、枝が折れることを防ぐため、晴天日の午後におこなう。  
※誘引角度は45度以上とする。（あまり横にすると芯止まりしやすい）
- ・ 着果数が多すぎると、梅雨明け後の草勢低下や着果不良の原因となる（特に4～6段花房）ので、1果房あたり20～30果を目安に摘蕾する。



草勢の適正值 ※開花花房とは4～5花開花した花房を指す

草勢の指標	適正值（管理目標）
①開花花房から先端までの長さ	15cm以上
②開花花房直下の莖径（莖断面の細いほう）	10mm

莖断面図



※ 右の株だと草勢がかなり弱い！  
（タバコの太さ約8mm、長さ約8.5cm）



☆ 暑い時間帯はハウスに入らない、こまめに水分補給するなど、  
熱中症予防に万全を期してください！